

研修会「海からあがった貝－淡水貝・陸貝－」に参加して

遠藤 登志子（千葉市）

日時：2012年6月30日（土）9時30分～12時30分

場所：大草谷津田いきものの里（千葉市）

講師：藤田英忠氏 参加指導員：24名

はじめに、貝を見て左巻きと右巻きについての確認をしてから、藤田講師手書きの分厚い資料をみながら解説してもらいました。まず、フォッサマグナを境に東日本側にはヒダリマキマイマイが多く分布し、西日本側には右巻きのタイプが多く分布しているという話がありました。次に、巻貝は海・淡水貝では鰓をもつこと（蓋がある）、陸貝は外套腔をもつ有肺類が基本とのことです。

房総にいそうな巻き貝は淡水貝の仲間では ①大きく殻が硬い巻貝はタニシ科カワニナ科を含めて5科 ②小さく殻が薄い巻貝はモノアラガイ科など4科があるとのこと。陸貝の仲間は日本では700種ほどで、①マイマイ類や ②キセルガイ類(100種以上)、③蓋をもつ有肺類（大きなヤマタニシ類などもあるが大部分は微小貝）だそうです。

今回、私は タニシ・カワニナ類は卵胎生で雌雄異体であることやマイマイ類の触角は、眼触角と口の前にある短い前触角（味覚や嗅覚に関係）の2対あることを知りました。観察会では、まずミスジマイマイが見られました。ミスジと名付けられてはいても殻底にも黒い部分があり、全部そろえば4スジ。スジ模様は色帯で表わすそうです。ヒダリマキマイマイ、ヒカリキセルガイ、トラマイマイ、ニッポンマイマイもみつけました。微小貝を探すため落ち葉を掻き分けましたが、時間をかけないとみつからないようです。水田ではオオタニシ、カワニナをみつけオオタニシの子はどこから産まれるかの疑問がでました。近くにいた親子連れも含めて、解剖してみると胎貝が10個ほど入っていました。生まれ方は宿題として、ひとつ家に持ち帰ると、翌朝子貝が母貝の殻に乗っていました。運良く雌貝だったのですが出産に立ち会う程の運はなかったので、調べてみると胎貝は胎児囊（子宮）にはいっており子宮口から出てくるということでした。水槽を覗くと、蓋を開けたオオタニシの触角の脇に目がみつき、僅かにゆっくり動く丸い水流がみつきその先に出水管の穴をみつけました。子貝が卵白のようなぬるっとしたものに包まれて、ちょこちょこ動きまわって見飽きません。



囊に包まれ生まれました 写真：日野原